

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス神埼教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	柳沢運動プログラムを用いた運動遊びと、静かな活動(紙芝居、フラッシュカードなど)を毎日違う内容で行っている	毎日の運動遊びは内容を変え、運動保育士がそれぞれのレベルに合った内容を行っている。 身体を動かした後は、静かな活動でクールダウンと集中力がついてきている。	定期的に行われている、運動保育士の研修やFC研修などでのスキルアップ
2	他教室との合同イベント	スポーツ大会が年に1度行われ、日ごろの運動療育の成果や集団活動と交流ができています 年に1度の修学旅行で、いつもは行けない県外などの施設へのイベントを行っている	担当スタッフでの話し合いをし、次年度への話し合いができています
3	送迎時やお迎え時に保護者さんとの会話の中で、その日の様子を伝えたりご家庭の様子などを聞き今後の支援内容に活かすことができています。	低学年の利用児童や新規利用のお子さんには、保護者の要望や本人が好きな事や関心のあることを取り入れながらスタッフが支援をおこなっている。 保護者の相談は随時受け付け、対応をおこなっている。	スタッフのスキルアップを行い、より良い支援を行っていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	不登校の状況にある児童について、利用継続が難しいことがある	学校や、相談員、行政の福祉課などの関連機関と連携を行っていく必要がある	本人の状況に応じた支援の方向性を整理していく
2	特別支援学校に在籍する児童が多く、それぞれの特性に応じた支援が求められる。	日々、関わり方やスタッフ間で確認し話し合いを行って行く。	児童一人に必要な配慮を整理しスタッフで共有することで、より安全して過ごせる支援に繋げていく。
3	高学年の利用児も多いため、室内のスペースが狭く感じる事もある。	運動スペースや活動時は時間を決めて活動できるようにしている。	活動の場を分かりやすく区切り視覚的に表示をし、スタッフが見守りを行い対応していく。